

7番（木村 宗朝君） 今回は2点について質問いたします。

まず1点目は教育長に、総合文化センター「ひばりホール」で行われる自主文化事業について質問いたします。

過去3年間の催しで、支出、収入、入場者数がどのようになったかをお尋ねいたします。できれば事業ごとのものをお願いしたいのですが、多いようでありましたら、主なものと年度ごとの合計をお願いいたします。そして、その催しが満席になった場合の収支はどのようになるのかを教えてくださいたいと思います。

よろしく申し上げます。

議長（門脇 助雄君） 石垣征生教育長。

教育長（石垣 征生君） ひばりホールでの自主文化イベント事業についてのご質問にお答えをいたします。

平成18年度、19年度の過去2年間に教育委員会が主催をしたひばりホールでの自主文化事業の入場者数及び収支でございますが、平成18年度は、夏川りみコンサートをはじめ4件の自主文化事業を開催し、完売2件を含めて、券売率は全体で93.8%でございます。また経費面から見ますと、合計の支出額は1,944万6,126円、入場料の収入は1,237万2,300円でございますので、収入率は64%となります。

平成19年度は、小椋桂コンサートをはじめ5件の自主文化事業を開催し、そのうち完売は2件で、全体の券売率は73.9%でございます。合計支出額は2,027万1,665円、入場料の収入は、1,181万2,000円でございますので、収入率は58%となります。

ここ最近の傾向としまして、演歌、あるいはこどもミュージカルの人気は低く、例えば平成19年度に実施いたしました、香西かおりさんのコンサートは2回公演で入場者は848人と、63%にとどまっております。

逆に落語やお笑い、あるいは昭和50年代に活躍されました歌手のコンサートなどは人気ございました。

次に満席になった場合の収支の状況でございますが、平成18年度は1,285万3,800円となり、支出に対しまして66%の収入となっております。また、平成19年度は1,524万円となり、支出に対して75%の収入となります。

現在も皆様にアンケートをお願いして、アーティストに対するご要望をお聞きしておりますので、今後も引き続き、より多くの皆様に喜んでいただける自主文化事業の開催に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしく願いを申し上げます。

議長（門脇 助雄君） 7番、木村宗朝君。

7番（木村 宗朝君） 満席になっても、それほど現在のパーセントは上がらないということをお聞きしました。当然、補助ということがありますので、文化

事業ですのでいいことだと思いますが、平成19年度で73.9%、その前が93.8%ということですので、せっかくのイベントを満席の人に見てもらう、このことが大事かなと思っておりますが、特に香西かおりの63%というのもありますけれども、少ない原因が何であったかというようなことは、どうお考えでしょうか。

議長（門脇 助雄君） 石垣征生教育長。

教育長（石垣 征生君） 町民の皆さんと申しますか、一定地域の住民の皆さんのいわゆる趣向と申しますか、それに合っていなかった部分があったのかなというふうに思いますし、そのときどきの人気の度合いにも左右されることでございますので、なかなかそれをうまく読み切って完売をするということに努めておるわけでございますけれども、特に最近は演歌とか、あるいは子ども向けのミュージカルなんかは不人気ということでございます。これからもできるだけ皆さんのご希望に沿うような形で努力をしてまいりたいと、こんなふうに思っております。

議長（門脇 助雄君） 7番、木村宗朝君。

7番（木村 宗朝君） いいアーティストを呼べば、何も努力しなくても満席になるということになると思うんですけども、それには予算的に高額になるということもありますし、席が700席という限られたものでもあります。四日市なんかは1,000人でも1,500人でも入れば、1枚の券も安くなりますし、難しい面もありますけれども、何かいろんな方法を考えて、満席になる方法を考えたかどうかと私なりに思ったんですけど。

1つは私は演歌が好きだ、私は若い人のそういうものが好きだ、あるいは演劇が好きだと、いろんな趣味があると思うんですけど、何でもいいから安く見たいという人もみえるかもわかりませんので、そういう方法を考えられないかなということでも質問をしたんですけど。

例えば文化協会が会員になっておると、年間で1枚か、補助券か何かあったような気がするんですけど、もちろん、5,000円の券を買って、その後、満席にならなかったから安い券を売るということは当然できませんけど、最初に登録をしておいた人が、演歌であろうと、演劇であろうと、若い歌手であろうと、何でもいいから安かったら見に行くわという人を募集しておいて、ある一定の期間に、例えばこの間、小椋桂は何人入ったかあれですけど、ほぼ満席でしたかね。だけど、ちょっと余裕があるというときに、小椋桂なら見に行くという人は当然最初から券を買うでしょうけど、登録制にしておいて満席にするという方法を考えたかどうかと、こういうふうに考えて質問をしたんですけど、この提案に対してどう思われるでしょうかね。難しいでしょうか。

議長（門脇 助雄君） 石垣征生教育長。

教育長（石垣 征生君） 私どもの施設は、ほぼ興行によって違うわけでございますけれども、いろんな器具を使いますので、650席から700席の間でござ

います。最高の高値が、私どもが設定しておりますのは、まず5,000円まででございますので、計算していただければ、約300万円から350万円以上の費用のかかる方は、私どもが負担をしなければならないということでございまして、今おっしゃっていただいたようなことは、一度、私どもの方でも、文化センターひばりホールの応援団みたいな形で会員を募って、足りない場合は応援してくださいというような、虫のいい話ではございますけれど、何かプレミアムをつけて、できたらできないものか、一度考えさせていただきたいと、こんなふうに思います。

議長（門脇 助雄君） 7番、木村宗朝君。

7番（木村 宗朝君） 今の話は、なかなか自分なりにいいアイデアだなと思ったんですけど、一度考えていただいて、やっていただけないかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

次に2つ目の質問にいきます。

まちづくり支援補助金について、町長に質問をいたします。

現在、各自治会へのまちづくり補助金や各種団体への助成金がありますが、年度当初に予算化されるものであります。このような補助金などは、町として必要性があって交付されていると思われまます。

今回はその議論ではありません。今回の質問は、現在ある補助金とは別に、全国の各市町村において、いろいろな名称で、まちづくりのための補助金制度ができていますが、その制度のことです。

NPO及びボランティア団体、福祉、教育、文化芸術、あるいは地域の活性化を目的として活動する団体など、まちづくりのために任意団体などへ支援し、町の活性化を図るといった趣旨で行われるものであります。そして期限を決めず、通年募集をして、予算の範囲内で迅速な対応をするというようなことも考えたらどうかと思います。

このようなまちづくり支援事業の考えがないかを、お聞かせいただきたいと思えます。

議長（門脇 助雄君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） まちづくりの補助金について、お答えをさせていただきます。

地方自治法では「最小の経費で最大の効果をあげるようにしなければならない」と規定をされております。いわゆる効率化の原則の視点から、行政運営を行うには、限られた財源の効率的な配分がなされなければなりません。

申し上げるまでもなく、補助金の財源は、住民皆さんから納付いただきました税金が原資でございまして、税の効率活用と公益性のもと、広く住民皆さんの共感を得られるもの、住民皆さんが納得できるものであるということが求められます。

議員からご提案いただきました、予算の範囲内で補助の限度額を定めて、まちづ

くりの提案などを募集し、それを公益性や有効性などについて審査した上で補助金を交付する、いわゆる公募型のまちづくり補助金につきましては、まちづくりの担い手である住民の皆さんが行う、公共性、公益性のある自主的な地域活動を支援し、地域の活性化と住民の連携と行政との協働によるまちづくりを促進するために、大変有効的な手段であると考えております。

既に、他の市町では導入の事例もございますので、調査研究をいたしてまいります。

よろしくご理解いただきますようお願いを申し上げます。

議長（門脇 助雄君） 7番、木村宗朝君。

7番（木村 宗朝君） 研究をしていただいて、ぜひとも導入をお願いしたいと思うんですけど、幾つかの事例の交付要綱が載ってましたので、少し読みますと、「君津市文化のまちづくり市税1%支援事業補助金交付要綱」、市長は市民との協働による新たな君津文化の創造及び市民交流の推進を図るため、地域の活性化や特色のあるまちづくりに役立つ公益的な事業を自主的に行う団体及び個人に対し、予算の範囲内で、君津市補助金等交付規則及びこの要綱に基づき、君津市文化のまちづくり市税1%支援事業補助金を交付するというのがあります。

次に富山県の入善町というのですかね、「未来のまちづくり事業補助金制度」、町では住民参加のまちづくり推進の一環として、未来のまちづくり補助金制度を設け、元気なまちづくりを実践する団体に活動費などの助成を行っています。活力ある町を目指して活動する団体に助成しますので、ぜひ申し込んでください。

湘南の二宮町というのですかね、「協働まちづくり補助金」、二宮町では町民皆さんが自主的に取り組む町民活動を支援するため、公募による補助金制度を平成18年度から始めました。この補助金は、二宮町町民参加活動推進条例に基づき、町民皆さんがみずからの意思で社会的なさまざまな課題に主体的に取り組む町民活動に対して財政的に支援しようとするものです。先駆性・専門性など、町民活動の持つ特性を生かし、町民ニーズに応じた事業を提案してください。

愛荘町、町では豊かで活力あふれる魅力あるまちづくりを進めるため、さまざまな分野における町民の皆さんが、自発的・主体的に取り組まれるまちづくり活動に対し、平成19年度から新たに助成金を交付します。愛荘町は暮らしやすい、愛荘町にずっと住み続けたいと思えるまちづくりを目指すことは、町民みんなの願いです。子育てしやすい、高齢者や障がい者も安心して暮らしたい、緑豊かで文化の香り高いまちにしたい、安心して住みよいまちにしたい、こういうことがいろいろと載

っておりましたので、ぜひとも参考にして、何とか導入をお願いしたいと思いますが、町長、もう一度、導入に向けての考えをお聞かせいただきたいと思います。

議長（門脇 助雄君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） いろいろありがとうございました。

財政上も大変厳しい中がございますので、基本的に今現在ある補助金の団体とが行財政改革の中で、81件ぐらい、補助団体とか、いろいろな補助を出している件数があるわけなんです。現在ではそれを54件ぐらいに絞り込んできているんですけど、額では1億5,600万円ぐらい、補助が出ているんですけど。

ただ、補助金という中にも、非常に範囲が広い。どうしても必要な団体に対する補助金、消防団とかいろいろありますし、非常に範囲も広くて、極端なことを言いますと、出しにくいものは補助金へいっておるような項目もございます。

そんな中で、新規に新しいまちづくりの補助金をまた起こしていくということになりますと、非常に財源的にも厳しい中です。我々は今ある現在の補助をもう一遍、再構築というのですか、そこらもひっくるめて、先ほどの新しい補助基準というんですか、そんなことを検討していきたい、そんな思いでおるわけでございます。

しかしながら、現在補助させていただいておる団体等について、補助カットとか変更するということになると、また反対運動が盛り上がってきますので、大変難しいんですけど、できたら公募型というんですか、いろいろの団体から公募していただいて、極端なことを言うと、それを町民の皆さんの第三者機関でご審議いただいて、補助を決定すると一番いいんですけど、なかなか補助金、難しいです。どうしても一律カットというふうな格好になってしまうんですけど、新しいまちづくりは、本来は自分たちで新しいまちづくりをやろうというところには出していく、そういうふうにいきたいんですけど、大変難しい、デリケートな部分がございますので、十分研究させてもらいます。そしてみんなが新しいまちづくりに向けて、いろいろの知恵をかしてもらえるような、そんなことを目指していきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いしたいと思います。

議長（門脇 助雄君） 7番、木村宗朝君。

7番（木村 宗朝君） 今ある補助金を見直すというのはなかなか難しいですけど、ぜひともそれも含めて、今言ったことの検討をぜひお願いをしたいと思います。

終わります。